

再び朝日新聞編集委員「処分」記事

12日にレポートした朝日新聞編集委員「処分」問題について、「声」にも投稿したが、反応はない。関連する「声」投稿も、まだ掲載されていないようだ。朝日新聞として、読者の信頼を裏切る重大な問題に対して、危機感を感じているのか疑わしくなる。毎日新聞13日夕刊「特集ワイド」理の眼で、ジャーナリスト青木理さんが「原則逸脱 論外の所業」と題して、この記者について書いているので紹介する。私としては、記者個人の問題だけでなく、朝日新聞社としての責任を「声」で問いたかったのだが。

7日付の朝日新聞朝刊にあぜんとするような記事が載りました。外交などを専門とする編集委員だった同紙のベテラン記者が「報道倫理に反し、極めて不適切」な行為を犯したため懲戒処分にした、というのです。記事によるとこの記者は、「核共有」発言をめぐって安倍晋三元首相にインタビューした経済誌の編集者に電話し、「私が顧問を引き受けている」「ゲラを見せてください」「ゴーサインは私が決める」などと語ったとか。編集者は拒否したそうですが、事実なら記者が政治家の「代理人」のように振る舞って他メディアの報道や編集に介入する言語道断の行為であり、メディアやジャーナリズムの基本原則から逸脱した論外の所業。

これに対して当該の記者は「不公正な処分」だと反論する一文をネットにアップしたのですが、これがまたあぜんとするような中身。処分対象となった事実関係については朝日側の指摘をほぼ追認しつつ、自身は「SNS上でも『朝日新聞の良心』と言われる」のだと妙な自賛を交え、安倍氏との関係をこんなふうに堂々と「告白」しているのです。

〈私は、中国問題をはじめとした安全保障分野の知見があることから、かねがね政府高官らから相談を受けることがあり、安倍氏にも外交・安全保障について議員会館で定期的にレクチャーをさせていただいていました〉

これまた自慢のつもりかどうか知りませんが、果たしてそれが記者の仕事ですか、と問いただきたいところ。しかも、他メディアの編集者に「ゲラを見せろ」などと語った振る舞いを次のように正当化しているのです。

〈私はひとりのジャーナリストとして、また、ひとりの日本人として、国論を二分するニュークリアシェアリング（引用注・核共有のこと）について、とんでもない記事が出てしまっただけで、国民に対する重大な誤報となりますし、国際的にも日本の信用が失墜しかねないことを非常に危惧しました。またジャーナリストにとって誤報を防ぐことが最も重要なことであり、今、現実には誤報を食い止めることができるのは自分しかいない、という使命感も感じました〉

失礼ながら、一言だけ忠告させていただきます。他メディアの誤報を心配する前に、ご自身の誤報を心配された方がよろしいのでは、と。

(2022年4月17日)